

帝京大学医学部附属病院 リハビリテーション科
リハビリテーション医学会臨床認定医・専門医取得コース
募集要項（案）

日本リハビリテーション医学会 臨床認定医・専門医取得コース

対象：初期臨床研修修了者（見込みを含む）：数名

期間：4年間

ただし、希望するものには、期間中の1年間以内に限り帝京大学医学部附属病院の他科またはリハビリテーション科の関連病院へのローテーションを認める。

ローテーション可能な科：

内科，神経内科，整形外科，脳神経外科，精神神経科

ローテーション可能な関連病院：

旭神経内科リハビリテーション病院

茨城県立医療大学付属病院

戸田中央リハビリテーション病院

東京厚生年金病院

他希望に応じて多数あり

3年間の研修を修了した場合，4年目にはリハビリテーション医学会の臨床認定医または専門医の受験が可能である。

また，本コースで研修した場合は，修了時に日本臨床神経生理学会認定医（脳波・筋電図）の受験資格も得られる。さらに内科を1年間ローテーションした場合，本人の経験した症例数が十分であれば，日本内科学会認定内科医の受験が可能になる。

リハビリテーション医学会（臨床認定医・専門医），日本内科学会認定内科医，日本臨床神経生理学会認定医の現行の受験資格（平成23年7月現在）を提示する。

日本リハビリテーション医学会 臨床認定医・専門医の受験資格

認定臨床医（内規より抜粋）

本内規は、認定臨床医制度に関する規則に基づき、日本リハビリテーション医学会認定臨床医になることを目標とする研修ならびに認定に関する手続きについて定めるものである。

（資 格）

認定臨床医として認定を受けられるものは、次の(1)、(2)及び(3)の規定を満たし、第4条に定める学会の行う試験に合格したものに限る。

- (1)医師免許取得後5年以上及び学会加入後3年以上経過していること。
- (2)以下のいずれかの研修を行ったものであること
 - 1)本医学会が認定した研修施設において1年以上の研修を修了したもの。
 - 2)別に定める指定の教育研修会を受講の上、指導責任者の推薦書を得たもの。
 - 別に定める指定の教育研修会を受講の上、指導責任者の推薦書を得たもの。
- (3)自らリハビリテーション医療を担当した10症例の臨床経過を各症例毎にまとめること。

専門医（内規より抜粋）

本内規は、専門医制度に関する規則第4条に基づき、リハビリテーション科専門医（以下、専門医という）になることを目標とする研修の細目並びに認定に関する資格及び試験について定めるものである。

（資 格）

専門医として認定を受けられる者は、次の各号に掲げる資格を有し、第3条に定める本医学会の行う試験に合格したものに限る。

- (1) 医師免許取得後5年以上及び学会加入後3年以上経過していること。
- (2) 本医学会の定めた専門医制度卒業研修カリキュラムに基づき本医学会が認定する研修施設において3年以上の研修を行ったものであること
- (3)本医学会における主演者の学会抄録2篇を有すること
- (4)前号(3)の2篇のうち1篇は、本医学会地方会における会誌掲載の学会抄録または地方会発行の発表証明書をもってこれに代えることができる。
- (5)自らリハビリテーション医療を担当した30症例の症例報告を提出すること
- (6)自らリハビリテーション医療を担当した100症例のリストを提出すること

日本内科学会

認定内科医

【受験資格】

大学医学部を卒業し、受験申込み時本会会員で、受験申し込み年度までの会費を完納し、下記研修歴を修了した者および試験日までに修了見込みの者

B. 2004年（平成16年）以後の医師国家試験合格者

次記の1, 2のいずれかに該当する内科研修歴を有し、内科全般の研修を修了したもの

1. 臨床研修2年＋教育病院（内科臨床大学院含む）での内科研修1年以上＝計3年以上（その内18カ月以上、内科研修していること）
2. 臨床研修2年＋教育関連病院での内科研修1年以上＝計3年以上（その内18カ月以上、内科研修していること）
（必修化された臨床研修の2年間は教育病院での研修扱いとする）

【提出書類】

受持入院患者18症例の一覧表、18症例の病歴要約、プレゼンテーション資料、ACLS受講修了証のコピー、臨床研修修了証のコピー（2004年以後の医師国家試験合格者のみ提出）。これらの【受験資格】と【提出書類】を満たし、認定内科医資格認定試験（筆記試験）に合格した者を認定内科医として認定する。

日本臨床神経生理学会

認定医

1. 医師の資格を有すること。
2. 臨床経験が5年以上あること（初期臨床研修期間の2年間を含む）。
3. 2009年2月末日現在で、継続的に3年間以上の本学会会員歴を有すること。学生会員歴も認めるが、正会員歴が含まれていること。
4. 脳波あるいは筋電図・神経伝導の臨床的検査・所見診断に3年間以上従事した経験を有すること（他の検査・診断との兼務期間も含む）。
5. 本学会主催の学術集会・技術講習会および関連講習会（基本理念の附則5）への参加が、申請時点からさかのぼって3年以内に2回以上あること。ただし、少なくとも1回は本学会主催の学術集会あるいは技術講習会であること。
6. 認定研修施設あるいは認定委員会が認める研究施設における1年以上の研修歴を有すること。ただし、認定研修施設あるいは認定委員会が認める研究施設が確定するまでは、暫定措置として、1年以上の研修歴を有することを認定医あるいは認定技術師が証明する書類を提出すること。

指導

緒方直史 教授

出身大学:千葉大学

東京大学医学部附属病院整形外科

社会保険中央総合病院

都立荏原病院、広尾病院

東京大学大学院医学系研究科博士課程卒業

ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院内分泌科基礎研究室研究員

東京大学医学部附属病院整形外科

東京大学医学部附属病院 骨・軟骨再生医療講座助教

同特任准教授

東京大学医学部附属病院リハビリテーション部講師を経て

2014年7月より現職

専門分野：リハビリテーション医学（脳卒中・脊髄損傷）

整形外科学（脊椎外科）

骨・軟骨代謝学（骨粗鬆症）

専門医：日本リハビリテーション医学会 指導責任者・同専門医

整形外科学会 専門医

伊佐地 隆 准教授

出身大学：名古屋大学

伊豆通信病院（現 NTT 東日本伊豆病院）

帝京大学リハビリテーション科 助手

東京都立大塚病院リハビリテーション科

茨城県立医療大学 講師 准教授

2011年4月から現職

専門分野：リハビリテーション医学（脳卒中、脊髄損傷、義肢・装具、障害者スポーツ）

専門医：日本リハビリテーション医学会 指導責任者・同専門医

山本昌義 助教

出身大学：帝京大学

青森県立中央病院

戸田中央リハビリテーション病院

2009 年から現職

専門分野：リハビリテーション医学（脳卒中、義肢・装具）

栢森良二 客員教授（帝京平成大学教授）

出身大学:新潟大学

横須賀米国海軍病院インターン

Texas 大学 San Antonio 校・臨床 Fellow(リハビリテーション医学, 末梢神経学)

Iowa 大学神経内科神経生理学部門・臨床 Fellow

新潟県立六日町病院リハビリテーション科医長

帝京大学リハビリテーション科講師, 同助教授、同教授

2014 年 4 月から現職.

専門分野:リハビリテーション医学(脳卒中・顔面神経麻痺・末梢神経障害)

専門医:日本リハビリテーション医学会 指導責任者・同専門医

日本臨床神経生理学会 認定医(脳波・筋電図)

整形外科学会 専門医

原 元彦 非常勤講師（埼玉県立大学教授）

出身大学:日本大学, 日本大学大学院(神経学専攻)

静岡赤十字病院 神経内科・検査部副部長

日本大学神経内科兼任講師(済生会向島病院神経内科医医長, 東松山市立市民病院内科医長)

Iowa 大学神経内科神経生理学部門 Visiting Research Fellow(日本大学海外派遣研究員)

日本大学神経内科講師

帝京大学リハビリテーション科講師

2011 年 4 月から現職.

専門分野:リハビリテーション医学(主に神経内科領域), 臨床神経学

専門医など:日本リハビリテーション医学会 指導責任者・同専門医

日本神経学会指導医・専門医

日本内科学会 総合内科専門医

日本臨床神経生理学会認定医(脳波・筋電図)

日本脳卒中学会 専門医

大西康史 非常勤講師（南魚沼市立ゆきぐに大和病院リハビリテーション科部長）

出身大学:金沢大学

自治医科大学

初台リハビリテーション病院

元浅草総合在宅ケアセンター

2013年4月から現職

専門分野:リハビリテーション科全般

家庭医療

専門医など:日本リハビリテーション医学会 専門医

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医・指導医